



①英霊気節厳霜烈日の碑

慶長5年(1600)の関ヶ原合戦の前哨戦・伏見城の戦いで戦死した内藤家長・元長父子の忠節を讃え明治32年(1899)に建立。撰文は四屋恒之。書は近代書道を確立した一人で、明治の三筆と言われる日下部東作です。



②ヤブツバキの古木

現在城山公園には3300本・108種のヤブツバキが群生し、延岡を代表する花となっています。この古木は赤・白・絞りの3種類の花が咲きます。このような木は「咲き分け」と呼ばれています。



③亀井神社旧社殿跡

昭和20年(1945)6月の延岡大空襲により焼失した社殿を昭和39年(1964)に現在地に再建。その後荒廃していましたが、近年「亀井の丘夢づくりの会」が中心となり、整備が進められ、礎石や社殿の配置などが明らかとなりました。



④亀井神社

慶長19年(1614)に藩主・有馬直純が延岡城の守護神として太宰府より勧請。享和元年(1801)に内藤家長・元長父子が祀られ、明治5年(1872)に亀井神社と改称されました。



⑤内藤記念館

昭和38年(1963)開館。内藤家より寄贈された能面、武器、甲冑、掛軸などの歴史資料や延岡に関する文化財を収蔵・展示する歴史資料館。毎週月曜日休館。開館時間は午前9時から午後5時。入館無料。



⑥天下一の能面展示

内藤記念館では、平成5年(1993)の市制施行60周年に際して、旧藩主・内藤家より寄贈された能面66点・狂言面6点を所蔵・展示しています。この中には、桃山時代末期から江戸時代前期にかけて「天下一」の称号を与えられた面打師の作品が30点含まれています。



⑦芭蕉句碑祭

松尾芭蕉が詠んだと言われる俳句「西行の庵もあらむ花の庭」が刻まれた句碑。碑の建立年は芭蕉没後の文化12年(1815)。もとは今山神社の境内にありましたが、昭和41年(1966)に現在地へ移設されました。今年も4月5日(日)に「芭蕉句碑祭&俳句大会」が開催されます。



⑧静思庵(いけばな展)

昭和40年(1965)に高千穂町から移築した寄棟造り・茅葺屋根の古民家。築150年と言われ、建物内部には囲炉裏や土間、和室が3間あり、昔の農家の暮らしを今に伝えています。現在では、市民の憩いの場となっています。4月4日(土)、5日(日)に「いけばな展」を開催します。



⑨桜児の碑と母像

日向国(宮崎)ゆかりの能の演目で、離れ離れになった母と子の感動の再会を描く物語「桜川」。延岡に縁のある演目であることから、明治45年(1912)に現在の桜児の碑が建立され、昭和57年(1982)には桜児の母像も併置されました。



⑩内藤記念館東門

内藤記念館が建つ場所は、江戸時代には歴代藩主が屋敷を構えて居住し、明治25年(1892)には内藤家が新しく御殿を建設しました。昭和20年(1945)6月の延岡大空襲により建物は焼失しましたが、蔵や東門は焼失を免れ、今なお当時の面影を残しています。



⑪カラミ煉瓦

明治時代に旧藩主・内藤家が経営していた日平銅山(現北方町)。そこで産出される銅の精錬過程で出る不純物(カラミ)を固めて作られたレンガ。現在でも延岡市内にはカラミ煉瓦の塀がいくつか残されており、全国的に珍しい貴重な近代遺産。



四種類の花が彩る早春の五ヶ瀬川

延岡花物語



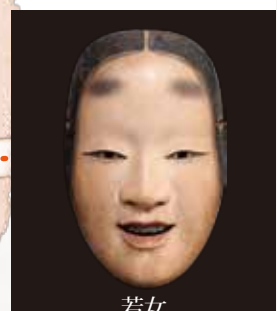
内藤家旧蔵の能面



猿飛出



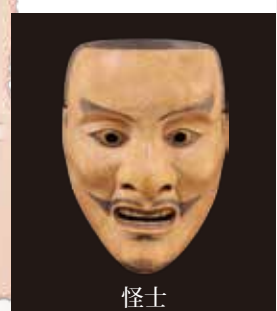
小面



若女



中将



怪士